



◆ 今号の表紙



大阪・関西万博

(大阪府大阪市)

185の国と地域が参加する2025年日本国際博覧会「大阪・関西万博」が、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、4月13日から10月13日までの184日間、大阪・夢洲で開催されています。

会場のシンボル「大屋根リング」は、全周約2km、高さ約12m、建築面積61,035㎡。世界最大の木造建築物としてギネス世界記録に認定されており、日本の神社仏閣などの建築に使用されてきた伝統的な貫（ぬき）接合に、現代の工法を加えて建築され、会場の主動線として円滑な交通空間であると同時に、雨風、日差し等を遮る快適な滞留空間として利用されています。

8つのゾーンに分かれ会場内には国内と海外をあわせた約180以上のパビリオンが大屋根リングの内外に並び、未来の社会や技術、文化を表現する展示を通じて、各国の特色を体験できる場となっています。

(大阪・関西万博公式HP参照)

3 特別寄稿

- ・黒川温泉に学ぶ、共生の思想
株式会社 JR 東日本建築設計
取締役 駅まち開発設計本部長 森本 浩章 氏

4-9 特集

- ・通常総会開催される

10-11 高山元会長、逝去

- ・故高山元会長の功績とあわせて、追悼の言葉を紹介します

11 NEWS

- ・「シャッター施工技能検定試験」の実施について
- ・「浸水防止用設備建具型技術標準の制定」について

12 新会員企業紹介

- ・有限会社 誠和実業
- ・株式会社 勇翔シャッター

13 会員企業紹介

- ・カンボウプラス株式会社
- ・東和シャッター工業株式会社

14-15 Spotlight

- ・シャッターの使用状況調査 2024

黒川温泉に学ぶ、 共生の思想

株式会社 JR 東日本建築設計
取締役 駅まち開発設計本部長
森本 浩章 氏



熊本県の黒川温泉をご存知だろうか。

今や全国屈指の人気温泉地として知られているが、元々は阿蘇外輪山の山裾に位置し、溪流が流れる鄙びた趣ある湯治場だ。この黒川温泉だが、交通が不便な山間部の地形や、少ない旅館数という致命的な弱点を逆手に取り、近代化の荒波のなか他の温泉地とは異なるアプローチで成功を収めたという。

江戸時代からケガや病気の湯治場として栄えた黒川温泉。1960年代にはクルマ社会の到来を追い風に賑わいを見せたものの、80年代には湯治の習慣が廃れ、客足も遠のいてしまった。しかし、“黒川温泉の父”とも称される新明館後藤哲也の教えに倣い、約30ある温泉旅館が利害関係を超え、温泉街一体での再興策を練った。その結果、「露天風呂」と「田舎情緒」そして「入湯手形」の発案により、黒川温泉は一つの運命共同体として存亡の危機を脱したのだ。

「個は競う。しかし、全体は一緒にやる」

黒川温泉の危機を救ったのは、この「競争」と「共創」の2つの姿勢だ。それぞれの旅館で風呂や料理、おもてなし等に磨きをかけつつも、黒川温泉という地域全体のことは共に対話し行動する。また、「黒川温泉一旅館」というビジョンがある。これは、一軒の繁盛旅館を生むよりも、「温泉郷全体が一つの宿、小径は廊下、旅館は離れの客室」と見立て、地区全体で共に繁栄していこうとする共生の意識を持つ独自の理念だ。そして、黒川ブランドは確立され、日本を代表する温泉地として全国、さらには海外からの集客も可能にしたのだ。

黒川温泉の理念は、他の温泉街や地方創生のヒントになるだけでなく、企業の持続性を考える際にも良い事例となる。企業が提供できる価値とは何か、顧客が求めているものは何か、業界をどう進化させたいか、企業はどのような存在でありたいか、何のために働いているのか。企業間の競争は成長と利益をもたらすかもしれないが、その成長は未来に持続可能なものなのだろうか。目先の利益に振り回され、顧客や社会にとって真に有益なものを見失ってはいないか。

今、世界は急速に変化し、これまでの常識が通用しなくなっている。私が所属する設計業界も、労働力不足やDX化の遅れなど大きな課題を抱えている。今こそ、彼らの理念をヒントに、設計事務所という“個の組織”と“業界全体”の繁栄を考えた両軸の変革が必要ではないだろうか。

通常総会開催される

5月20日（火）午後、東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門において、（一社）日本シャッター・ドア協会の2025年度通常総会が開催された。第44回定例理事会に続いて、記者会見が行われた後、夕刻より懇親会が開催された。なお、協会表彰は懇親会内で実施された。

16時より、第一種会員および監事出席のもと「2025年度通常総会」が開催された。通常総会では、潮崎会長が議長を務め、報告事項として2024年度事業報告が行われた後、決議事項として、第1号議案「2024年度決算（案）承認の件」、第2号議案「新会費（案）承認の件」が諮られ、原案通り承認された。次にその他報告事項に移り、2025年度事業計画および2025年度収支予算、2025年度協会表彰、会員の状況等について報告された。



定例記者会見が開催される



17時より、日刊紙、業界紙14社の参加のもと、定例記者会見を開催した。会見には、潮崎会長、高山副会長、青木専務理事が出席し、高木事務局長が司会を務めた。

まず、潮崎会長より、今年度の当協会を取り巻く環境について説明が行われた。続いて、そのような環境の中での当協会の課題として、ストック対策の推進、シャッター施工者の確保・育成に向けた取り組み、防災・減災に寄与する製品の普及の3点について言及した。その後、青木専務理事より2025年度事業計画について説明が行われ、質疑応答を経て記者会見は終了した。

2025年度新理事紹介



秋澤 克巳 常任理事
(株)鈴木シャッター
代表取締役社長



2025年度懇親会が開催される

18時からは会員ら199名が出席し、懇親会が開催された。

高木事務局長の司会により開会され、潮崎会長からご出席いただいた方々への御礼と、協会としての今年度の方針や業界の動向などについての報告が行われた。続いて、ご来賓の2名の方々より挨拶をいただいた。また、衆議院議員 菅 義偉氏からの祝電も披露された。その後、協会表彰者の皆様の表彰が行われ、高橋副会長の乾杯の発声により歓談に移った。途中、ご来賓の2名の方々よりご挨拶があり、会は19時30分に岡田常任理事の司会によりお開きとなった。



■潮崎会長ご挨拶



先ほど開催されました通常総会におきまして、2024年度決算をはじめ全ての議案が可決され、総会が滞りなく終了しましたことを、先ずはご報告申し上げます。総会でご了承いただいた事業計画などに基つきまして、本年度の当協会の事業を着実に推進していきたいと考えておりますので、よろしくお願ひ申し上げます。

さて、当協会を取り巻く市場環境ですが、我が国の景気は緩やかに回復しているとされるものの、2024年度は、シャッターの出荷量は対前年度マイナス4.6%、ドアがマイナス2.9%となり、特にシャッターはやや低調な動きとなっています。

高止まりしていた鋼材価格は低下傾向が見られるものの、弱含みとなっている建築着工の動向なども懸念されます。また、世界中を翻弄しているトランプ関税の行方や我が国経済に及ぼす影響は、見通すことができない状況となっております。今後は、これらの動向をしっかりと注視していく必要があると考えます。

そのような中での今年度の当協会の活動の方向ですが、まず、シャッター及びドアに関する各種基準類の策定・改定、製品安全の確保に向けた取り組み、所定の性能を有す

るシャッター及びドアの認定等は、協会活動の基盤となる事業であり、引き続き、着実に推進してまいります。その上で、特に重点的に取り組むべき課題としまして、第1点は、ストック対策の推進です。国において進められた定期検査報告制度の改正が、7月に施行されますので、引き続き会員への情報提供、情報共有を図り、制度が適切かつ円滑に運用されるよう努めてまいります。また、点検の日、安全の日を中心とした広報活動など、シャッター・ドアの適切な維持管理や安全確保に向けた取り組みを進めます。

第2点は、シャッター施工者の確保・育成に向けた取り組みです。施工者の確保・育成や施工品質の向上を図るため、国家資格である技能検定制度の導入に向け取り組んでまいりましたが、本年2月、技能検定制度にシャッター施工職種が追加され、当協会が、その指定試験機関に指定されました。今年度は、その第1回となる検定試験を着実に実施しますとともに、この技能士資格をベースに、建設キャリアアップシステム等の導入を目指す取り組みを進め、施工者の適切な能力評価や処遇改善に結び付けていきたいと考えております。

第3点は、防災・減災に寄与する製品の普及です。近年多発している台風や集中豪雨による浸水被害に対応するため、浸水防止用設備の技術標準の策定や、重点的な広報活動を進めてまいります。また、当協会もJIS制定に取り組んだ住宅用窓シャッターなど、防災・減災に寄与する商品の普及を進めてまいります。

以上、重点的な取り組みなどについて触れましたが、引き続き、会員各社と十分連携を図りながら、協会活動を着実に進め、安全で安心できる社会の形成に貢献していきたいと考えております。関係者の皆様には、変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

■ご来賓の挨拶



衆議院議員
衆議院政治倫理
審査会会長
田中 和徳氏

日本全国どこでも自然災害がいつ起きるかわかりません。またこれまでも度々、様々な災害がございました。その際に確実に多くの命と社会全体を守るために、皆様の果たす役割がいかに大きいか、このことは明らかなことでもあります。時代の変化とともに、技術面においても皆様が検証され学ばれ、そして新しく優れた技術をもって社会貢献をされること、また常に点検をされながら地

域社会や建物を守ることにお努めいただいているわけございまして、本当にありがたいことだと思いつつ、皆様とともに努力をしていかなければならないと思っております。もう一点、最近では犯罪も次第に巧妙になっており、様々な難しい課題があります。この防犯対策についても、シャッター・ドアそれぞれの分野で皆様方に研究していただき、防犯の観点からお力をいただいております。この面についても感謝御礼を申し上げます次第でございます。

ぜひこれからも私たちは、政治の面で皆様方とともに頑張りますので、よろしく願い申し上げます。



衆議院議員
デジタル行政財
政改革担当大臣
平 将明氏

先日、サイバー対処能力評価法案が可決成立いたしました。昨今、サイバー攻撃が激化しており、港湾施設の機能停止、仮想通貨の流出、航空会社への攻撃、金融機関のシステム障害など、国家を背景とした攻撃が急増しております。海外では重要インフラへの長期潜伏型攻撃も確認されており、有事の際の機能停止を狙った事前準備が行われております。今回成立し

た法律により、日本を通る外国通信の分析、悪意あるサーバーの特定・無力化が可能となり、従来のディフェンス専門から積極的防衛へと転換いたします。サイバー攻撃は大企業のみならず、取引先の中堅・中小企業の脆弱性を狙い、大手企業の工場停止につながる事例も発生しております。中小企業向けには、経産省の「サイバーお助け隊」制度があり、モニタリング、緊急対応、損害保険など総合的なパッケージを比較的安価で提供しております。人手不足対策やAI政策も推進しており、今後とも皆様との意見交換を通じて、さらなる政策の充実を図ってまいります。



参議院議員
環境大臣政務官
朝日 健太郎氏

防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策を今年で一区切りとしますが、来年以降はさらに実施中期計画として、今後5年間で20兆円強の国土強靱化対策を打ち出しております。シャッター・ドア協会の皆様におかれましては、止水板やシャッターのメンテナンスなど、様々な課題があるかと思いますが、東京などの都

市部では建築物の老朽化対策が大きな課題となっております。なかなかそういった分野にまで対応できず、予算が十分に配分されていないという状況をご相談いただいておりますので、そういった目詰まりを起こしている部分をしっかりと解消しながら、皆様の業界がしっかりと発展できるよう、我々も連携を取らせていただきたいと思います。皆様とともにこの日本を前に進めていく、そのような強い気概を持って取り組んでまいりますので、よろしく願い申し上げます。



国土交通省
大臣官房審議官
宿本 尚吾氏

この4月から省エネ基準の適合義務化を開始し、全ての住宅や建築物に省エネ基準への適合を義務付けました。多少の混乱はありますが、おおむね順調にスタートしていると考えております。今後2030年に向けて、この省エネ基準の引き上げ、全面的な展開を進めてまいります。これによって、住宅・建築物の省エネ化について

は一定の道筋がついたと考えております。ただし、建築産業全体を見ますと、建材を製造するとき、運搬するとき、施工するとき、さらには解体するときに至るまで、様々な局面でCO₂を排出しております。こうした課題について、今後はライフサイクルアセスメントのCO₂評価を制度化していくことを、私どもとしては次のテーマとして掲げてまいりたいと思っております。

ぜひ皆様のお知恵もお借りして、こういった議論を前向きかつ建設的に進めていきたいと考えておりますので、会員各社様の一層のご理解と絶大なるご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

■乾杯の発声

ご来場の皆様、それから会場にお越しの皆様お忙しい中、ご出席いただき、誠にありがとうございます。本日の総会および理事会にて、新たな年度の本格的なスタートが切れました。

業界のために、新年度も協会としては、運営側として頑張ってまいりますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



乾杯の発声を行う
高橋副会長

■中締め



中締めの挨拶を行う
岡田常任理事

2025年度 協会表彰

本年度、優秀工事従事者協会表彰として9名、協会表彰は個人として3名が表彰された。

■優秀工事従業者協会表彰

- 田畑 学氏 (推薦:小俣シャッター工業(株))
- 西原 由修氏 (推薦:金剛産業(株))
- 前田 真也氏 (推薦:日本フネン(株))
- 吉本 豊志氏 (推薦:文化シャッター(株))
- 神田 将範氏 (推薦:(株)鈴木シャッター)
- 藤城 裕文氏 (推薦:三和シャッター工業(株))
- 丸井 優範氏 (推薦:三和シャッター工業(株))
- 江口 将氏 (推薦:三和シャッター工業(株))
- 鈴木 敏樹氏 (推薦:東洋シャッター(株))



田畑 学氏



西原 由修氏



前田 真也氏



吉本 豊志氏



神田 将範氏



藤城 裕文氏



丸井 優範氏



江口 将氏



鈴木 敏樹氏

■協会委員表彰

- 菊池 修氏 品質・安全委員会 (株)鈴木シャッター
- 八巻 伸一氏 オーバーヘッドドア技術委員会 金剛産業(株)
- 伊澤 秀観氏 窓シャッター技術委員会 三和シャッター工業(株)



菊池 修氏



八巻 伸一氏



伊澤 秀観氏

■協会特別表彰

【技能検定制度化プロジェクトチーム】

- 中内 勝也氏 (リーダー) 三和シャッター工業(株)
- 岡本 光永氏 (サブリーダー) 文化シャッター(株)
- 大竹 公二氏 三和シャッター工業(株)
- 酒井 勇人氏 三和シャッター工業(株)
- 神田 和行氏 東洋シャッター(株)
- 延島 賢氏 東洋シャッター(株)
- 菊池 修氏 (株)鈴木シャッター
- 益岡 徹治氏 (株)鈴木シャッター
- 上野 耕平氏 (アドバイザー) 工学院大学校友会
(三和シャッター工業(株)OB)



2025年度 事業計画

はじめに

シャッター及びドアは、建築物において防犯等の管理機能や防火・遮煙等の防災機能といった重要な役割を担っている。

当協会は1964年に社団法人日本シャッター工業会として設立され、2000年には社団法人日本シャッター・ドア協会として新たにスタートし、今日まで、このような重要な役割を担うシャッター及びドアの性能向上や普及を通じて、より安全で安心できる社会の形成に貢献してきたところであり、引き続き、協会活動を着実に推進していく。

シャッター及びドアに関する各種基準類の策定や改定、製品安全の確保に向けた取り組み、維持管理における安全対策の推進、所定の性能を有するシャッター及びドアの認定等は、協会活動の基盤となる事業であり、引き続き、着実に実施する。

シャッター及びドアのストックは膨大なものとなっており、ストック対策が重要となっている。適切な安全確保や維持管理のための広報活動を展開するとともに、防火設備の定期検査報告制度について、適切かつ円滑に実施されるよう、会員及び関係機関等とともに取り組む。

また、シャッター施工者の確保・育成、施工品質の向上等を図るため、昨年度、当協会が指定試験機関に指定された技能検定制度の第1回検定試験を着実に実施するとともに、建設キャリアアップシステム等の導入に向けた検討を進める。

さらに、浸水防止用設備など、防災・減災に寄与する商品の普及に向け、技術基準を策定するとともに、広報活動を展開する。

2025年度においては、今後の経済社会の動向や、業

界及び当協会の課題やあり方も見据えながら、会員及び関係機関等と連携を図り、以下のような事業を推進するものとする。

1 調査研究普及事業

シャッター及びドアに関する技術基準等の策定・改定、製品安全への取り組み、維持管理における安全対策の推進等を行う。

(1) 技術基準類の策定

- ・技術基準類の策定、改定を進める。
 - 浸水防止用設備建具型及び同パネル型の技術基準を策定する。
 - 重量シャッターの技術基準を改定する。
 - 窓シャッターの技術基準を改定する。
- ・オーバーヘッドドア JIS の改定に向けた取り組みを進める。

(2) 製品安全への取り組み

- ・事故情報の収集・分析を継続的に行うとともに、シャッター・ドア等安全対策検討委員会において、事故発生原因及び防止策について検討する。
- ・耐火クロスクリーンの設置に関する自主管理の確認を行う。

(3) 維持管理における安全対策の推進

- ・シャッター・ドアの適切な安全確保及び維持管理を呼びかけるチラシ・ポスターの作成、ホームページへの注意喚起事例の掲載を行い、点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）を中心に、定期的な保守点検の実施や危害防止装置等が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進める。
- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習を実施するとともに、同保守点検専門技術者の新規認定、資格更新を実施する。
- ・一般財団法人日本建築防災協会の委託を受け、防火設備検査員講習の実技講習を実施する。また、防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を実施する。

(4) 資料収集・普及事業

- ・シャッター・ドアの市場及び用途に関する調査を実施する。
- ・労働災害発生状況調査を実施する。
- ・元下請取引実態調査を実施する。
- ・防犯製品に関する情報収集・提供、普及に努める。
- ・会報・ホームページによる情報提供に努める。
- ・優秀工事従業者等の協会表彰を行うとともに、優秀施工者の国土交通大臣顕彰及び不動産・建設経済局長顕彰に関し推薦を行う。
- ・スチールドアに関する全国研修会を行う。
- ・シャッター施工に関する総合的なテキストの別冊を刊行する。

2 評定登録講習事業

所定の性能を有するシャッター及びドアに関する認定、登録並びにシャッター及びドアの保守点検に関する人材育成等を行う。

(1) 所定の性能を有するシャッター及びドアの認定、登録等

- ・遮炎遮煙性能に関し国の認定を受けた構造方法（CAS）の使用承認を行う。また、顧客ニーズの多様化等に対応するため、新たなCASの大臣認定取得に向けた取り組みを進める。
- ・一般社団法人日本火災報知機工業会及び日本防排煙工業会と合同で、連動機構・装置等の自主評定を行う。
- ・警察庁等で組織する官民合同会議に参画し、防犯性能の高い建物部品の自主評定を行う。

(2) シャッター及びドアの保守点検に関する人材育成

- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者資格認定講習を実施する。
- ・防火シャッター・ドア保守点検専門技術者の新規認定、資格更新を行う。

(3) 防火設備検査員に関わる講習の実施

- ・一般財団法人日本建築防災協会からの委託を受け、防火設備検査員講習における実技講習を実施する。
- ・防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を実施する。

(4) 技能検定試験等の実施

- ・シャッター施工職種の第1回技能検定試験を着実に実施する。
- ・協会資格試験合格者を技能士に移行させるための特例講習を実施する。

3 シャッター及びドアのストック対策の推進

- ・防火設備検査員講習の実技講習を一般財団法人日本建築防災協会から受託し、実施する。また、防火設備検査員を対象とした、実務能力の向上を図るための実践的なWEB講習を実施する。
- ・防火設備定期検査報告制度の改正・施行に適切に対応する。
- ・シャッター・ドアの適切な安全確保及び維持管理を呼びかけるチラシ・ポスターの作成、ホームページへの注意喚起事例の掲載を行い、点検の日（6月1日）、安全の日（9月1日）を中心に、定期的な保守点検の実施や危害防止装置等が未設置のシャッターの解消を図るための取り組みを進める。

4 担い手の確保・育成

- ・シャッター施工職種の第1回技能検定試験を着実に実施する。
- ・協会資格試験合格者を技能士に移行させるための特例講習を実施する。
- ・シャッター施工に関する総合的なテキストの別冊を刊行する。
- ・建設キャリアアップシステム、登録基幹技能者制度の導入に向けた検討を進める。

5 防災・減災に寄与する製品の普及

- ・浸水防止用設備建具型及び同パネル型の技術標準を策定する。
- ・浸水防止用設備に関するポスター、リーフレットを作成し、会員各社と連携して浸水防止用設備の普及のための取り組みを進める。

6 会員サービスの取り組み

- ・協会会員からの要望に対し、当協会としての会員サービスの取り組みを検討していく。
- ・賛助会員の技術・製品に関する説明会を実施する。

これらの事業を推進するため、協会活動の基盤である会員の拡充を図るとともに、必要に応じ、学識者、行政関係者、関係団体役職員の参画を求めて、会員の協力による委員会を組織する。

また、各事業の進行管理及び日常の活動のために必要な事務局体制を整備するとともに、その効率的な運用に努めるものとする。

高山元会長、逝去

当協会の※元会長である高山俊隆氏が、さる4月21日に逝去されました。
今号では故高山元会長の功績とあわせて、当協会の潮崎会長と杉山監事から
寄せられた追悼の言葉を紹介します。

※会長在任時は前身の（社）日本シャッター工業会

高山元会長の主な経歴



高山 俊隆 元会長

- 1963年 三和シャッター工業（株） 入社
- 1981 - 2007年 三和シャッター工業（株） 代表取締役社長
- 2007 - 2012年 三和ホールディングス（株） 代表取締役社長
- 2012 - 2014年 三和ホールディングス（株） 代表取締役会長兼社長
- 2014 - 2020年 三和ホールディングス（株） 代表取締役会長
- 1981 - 1984年 （社）日本シャッター工業会 理事
- 1984 - 1996年 （社）日本シャッター工業会 理事・副会長
- 1996 - 1998年 （社）日本シャッター工業会 理事・会長（第6代）
- 1998 - 2000年 （社）日本シャッター工業会 理事
- 2000 - 2002年 （社）日本シャッター・ドア協会 理事
- 2002 - 2008年 （社）日本シャッター・ドア協会 理事・副会長

■受賞歴

- 1996年 建設大臣表彰受賞
- 2002年 藍綬褒章受章
- 2015年 （一社）日本シャッター・ドア協会会長表彰（特別功労）受賞

高山元会長の協会での功績

高山俊隆氏は当協会において安全対策の推進と性能規定に基づく基準づくりに大きく貢献されました。1995年に副会長としてPL（製造物責任法）委員会の委員長を務め、「PLガイドライン」の刊行により会員各社の安全対策強化を先導されました。1996年に第6代会長に就任後は、建築業界の大きな転換期において協会の舵取りを担われました。会長在任中の1997年には重量シャッターの性能と品質の向上を目指して「重量シャッター技術標準」を刊行し、会員各社の技術的指針を確立されました。高山氏が築かれた基盤は、その後の危害防止機構の普及や点検法制化の実現

など、当協会の安全対策推進の礎となり、現在の協会発展に大きな功績を残されました。



1996年（社）日本シャッター工業会第6代会長就任挨拶



2015年 協会50周年祝賀会 特別功労者表彰



潮崎会長

高山俊隆三和ホールディングス株式会社 元代表取締役会長 のご逝去に対して、心よりお悔やみ申し上げます。

高山さんは27年にわたり理事として当協会の発展に尽力され、この間、会長、副会長を歴任し、多くの功績を残してくださいました。特にCAS仕様の防火設備をはじめ、ドア全般の技術基準等の整備に尽力くださいました。また、シャッター、ドア等の防犯性能の向上に取り組み、消費者への普及に貢献されました。そして、わが業界の念願であった保守点検の法制化として「防火設備定期検査報告制度」の創設に貢献してくださいました。

その卓越した指導力と温厚な人柄は、多くの人々から尊敬を集めておりました。

高山さんのご功績とお人柄を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。



杉山 監事

高山俊隆様のご逝去にあたり、心よりお悔やみを申し上げます。

高山俊隆様は、40年以上の長きに亘り三和グループのトップとして、そして当協会の前身である日本シャッター工業会の第6代会長を務められるなど、業界の発展と地位向上のため多大な功績を残されました。

私が最後にお会いした昨年(2023)の6月も、以前と変わらない力強い語気で言葉をかけて頂いておりましたので、未だにその事実を受け入れることが出来ません。

今から40年近く前になりますが、私が20代半ばの頃に初めてお会いした時の強烈な印象は、バイタリティーに満ち溢れた口調で確固たる経営理念についてお話をされる姿に接して、当時若輩の私はただ圧倒されるばかりで「理想とする経営者は斯くあるべきなのだ」と畏敬の念を強く抱いた…そんな記憶が昨日のこのように思い返されます。

私が当社(杉山商店)の社長に就任した2007年からは、毎年数回ほどお目にかかる機会に恵まれて幾度となくお話をさせて頂きました。

終ぞお褒めの言葉を頂くことは一度もありませんでしたが、厳しい言葉のなかには愛情も込められており、高山俊隆様からの激励に未熟な私は何度も勇気づけられました。

今となっては、厳しくも愛情ある言葉を頂くことが叶わない事実が残念でなりません。

しかし、高山俊隆様の確固たる経営理念と強いリーダーシップで果たされた功績は、長い業界の歴史の中に深く刻まれて、私たちの記憶からも消えることはないでしょう。

高山俊隆様、ありがとうございました。

NEWS

「シャッター施工技能検定試験」の実施について

技能検定の職種に「シャッター施工」が新設され、さる2月に当協会が試験業務を行う指定機関に指定されました。そして、国家資格となる「シャッター施工技能検定試験」が今年度よりスタートします。



技能検定への「シャッター施工職種」新設に伴い、試験業務を行う指定機関として指定通知書を受領した潮崎会長と中内PTリーダー(左)('25.2)

既に各級の受検申請の受付は、5/13に締め切っており、札幌・東京・大阪・福岡の全国4カ所で試験が実施されます。

今後のスケジュールは、右の通りとなります。

詳細については、協会ホームページのニュース

より「令和7年度シャッター施工技能検定について」をご参照ください。

【スケジュール】	
R7/7/11	: 3級学科・実技試験
R7/8/1	: 1級・2級学科試験
R7/8/19	: 1級・2級・3級学科試験 ・3級実技試験合格者発表
R7/10月~11月	: 1級・2級実技試験
R8/1/13	: 1級・2級実技試験合格者発表
R8/1月末	: 合格証書公布

「浸水防止用設備建具型技術標準の制定」について

浸水防止用設備建具型構成部材のJIS A 4716が2019年に制定されたのを受け、技術基準をJISに合わせ策定し、更に設計基準、施工基準、点検基準を策定、浸水防止用設備建具型の技術標準として2025年4月に制定しました。

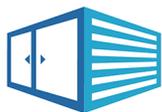
主なポイントは、技術基準にJISと同様に漏水量による

6区分の等級を設け、設計基準は、確認事項、設計手順などを中心に策定しました。

今後は、浸水防止用設備パネル型の技術標準制定に向け活動を行っていきます。

製本は、2025年7月頃を予定しております。

新会員企業紹介



誠和実業 有限会社 誠和実業

2017年に先代の社長から誠和実業の経営を引き継ぎ、2019年には自動ドア販売店の事業も継承いたしました。このような素晴らしいご縁の巡り合わせにより事業規模が拡大し、多くの企業様とのお取引が実現しておりますことを心より感謝申し上げます。

シャッター・自動ドアに関するサービスを提供する会社として、企画・設計・施工・修理・保守点検を総合的に行う一貫管理にこだわり、社員一人ひとりのフットワークの軽さを誇りにしております。当社の取引先は大型商業施設や金融機関、医療機関など、多くの方が利用する施設の中心ですので、利用者がいつでも安全で快適に日常生活が送れるよう、速さと正確さを徹底した管理体制を整えています。

JSDA に期待すること

会員様との情報交換の場を設けて頂けることや、業界全体の動向や法改正・資格試験・商品研修会などの情報発信をお願いします。また、シャッターの安全意識を世の中に広く周知してくれることを期待しています。



所在地：沖縄県宜野湾市真志喜5丁目20番12号
事業概要：シャッター販売・施工・修理・取替・保守点検・
防火設備点検及び自動ドア販売・施工・修理・
取替・保守点検 その他 アルミフロントサッシ・
鋼製建具の施工及び修繕など

公式 HP：<https://www.seiwajitugyo.com/>



代表取締役社長
平良 真裕 氏



株式会社勇翔シャッター

株式会社勇翔シャッター

私たち株式会社勇翔シャッターではシャッター製品の企画・設計・製造・販売・施工・メンテナンスまで一貫して行うメーカーです。住宅用から商業施設・工場向けまで、あらゆるニーズに応える多彩なシャッター製品を提供しています。自社製品につきまして、オリジナル電動シャッターの制作・設計（重量シャッター・軽量電動シャッター・手動シャッター・物置用シャッター）をしております。また建築金物関係制作の部材も制作しております。強みにしましては短納期対応・シャッターに不随する工事を全て対応出来る事・豊富な経験が有るのでお客様にご提案など今後につきましては色々な方と出会い、助け合いを大事にして行きたいと思っております。

JSDA に期待すること

皆様と出会い、仕事の幅を大きく広げて行き、会員様と交流を期待しております。今後色々な資格を習得したいと思入会致しました。

所在地：大阪府東大阪市森河内西1丁目1番17号
事業概要：各種シャッターの設計・製造・施工を一貫して手掛ける専門企業 建築工事・建設工事致します。



代表取締役社長
木下 雄二 氏



会員企業紹介

KANBO PRAS カンボウプラス株式会社

当社は1939年に染色加工場として創立し、現在では産業用繊維製品の専門メーカーとして、テント・ターポリン、帆布、粘着テープなどの多彩なシート製品を展開しています。中でもシャッター関連においては、防災、耐熱などの機能素材を中心に、シートシャッターや間仕切り、防火スクリーンなどに使われるシートの製造を行っており、防火設備における安全性向上に貢献しております。

当社の強みは、創業以来長年のノウハウと柔軟な対応力を生かした、設計段階からのモノづくりに貢献できることだと考えおります。お客様のニーズに応える機能性と安全性を兼ね備えたシート素材で、様々な業界の課題解決に貢献するパートナーを目指します。

JSDA に期待すること

今後ますます高まるであろう「省エネ」や「環境対応」に関する情報発信を期待いたします。また、会員企業様との情報交換の機会を広げていただき、業界全体での連携、整備をより実効性のあるものとしていただくと幸いです。



本社



福井工場

所在地：大阪市中央区南本町1丁目8番14号 JRE 堺筋本町ビル8階

事業概要：①ファイバー（繊維）とプラスチック（樹脂）の複合化によるキャンパスの製造と販売 ②キャンパスをデザイン・設計・縫製した商品の販売 ③一級建築士事務所 建築物・工作物の設計・施工

公式 HP：<https://kanbo.co.jp/>



代表取締役社長
中村 信治 氏

東和シャッター工業株式会社

当社は大正8年に食品加工機械製造販売業として創業し、昭和23年にシャッター事業を始め社名を東和シャッター工業株式会社に変更し、シャッターの製造・販売・施工・メンテナンスを行い、大阪を拠点に近畿一円で営業しております。当社は短納期や一部即日対応の可能なところが強みです。また、焼付塗装の設備も備えており、塗装に関する要望にもお答えできる体制です。これからも時代の変化に対応し、より良い生活環境をもとにシャッターを通じて安心・安全・快適をお届けして参りたいと思います。

JSDA に期待すること

今後も業界内の現状、今後の動向、課題などについての様々な情報発信をお願いいたします。

所在地：大阪府大阪市住吉区苅田2丁目16番20号

事業概要：各種シャッターの製造・販売・施工・設計・メンテナンス

公式 HP：<https://towa-shutter.jp>



代表取締役社長
山田 守 氏



本社

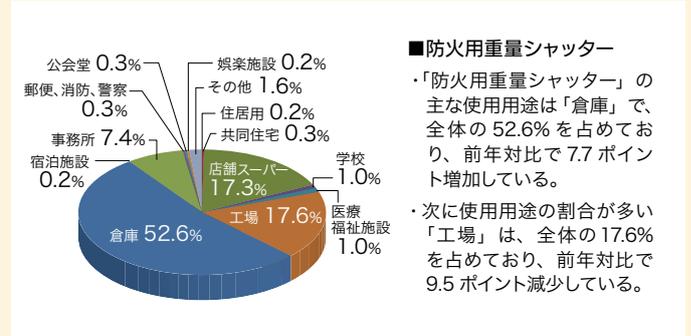
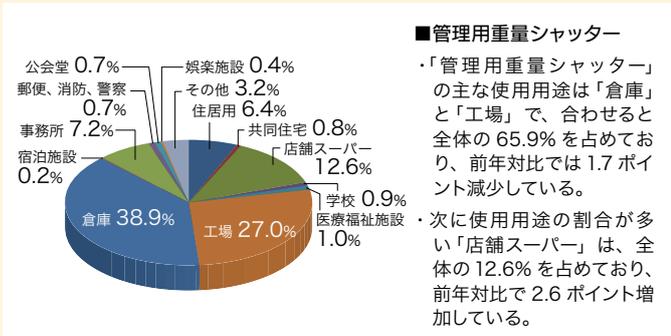
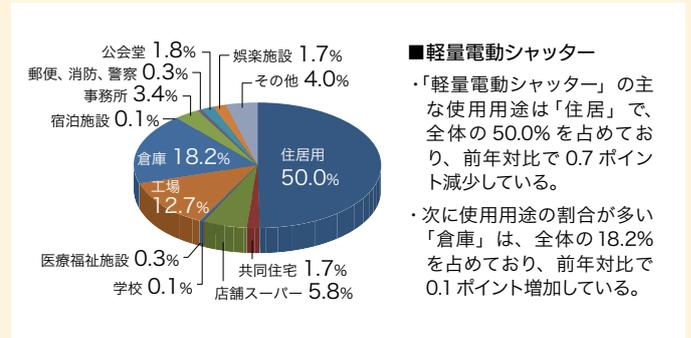
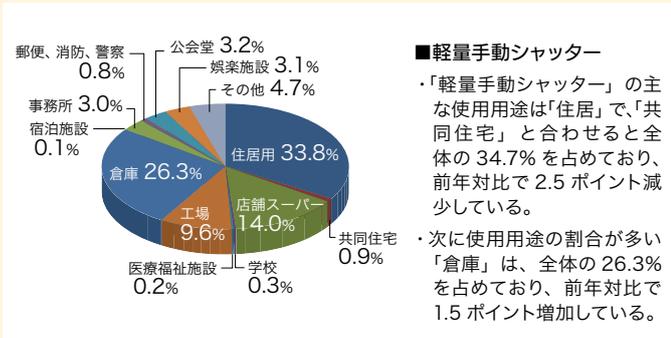


和泉工場

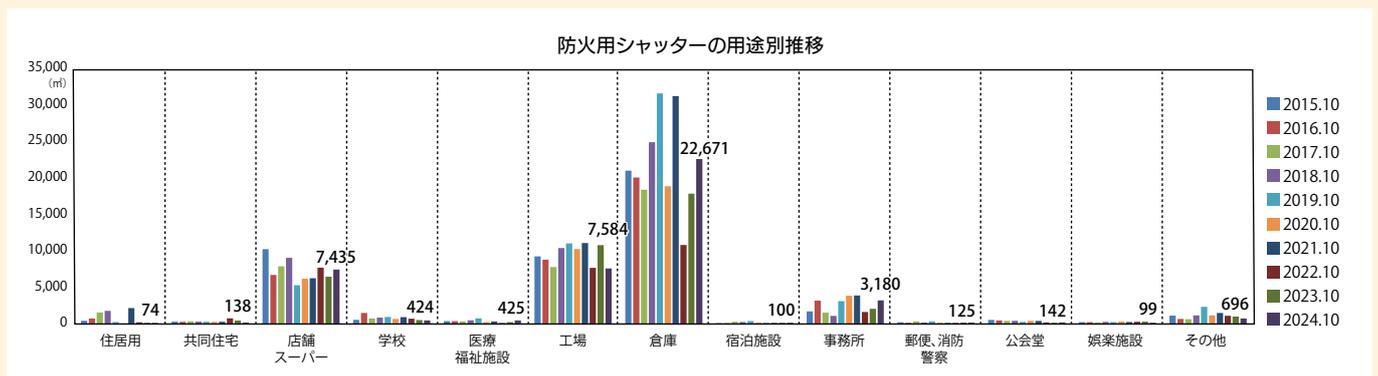
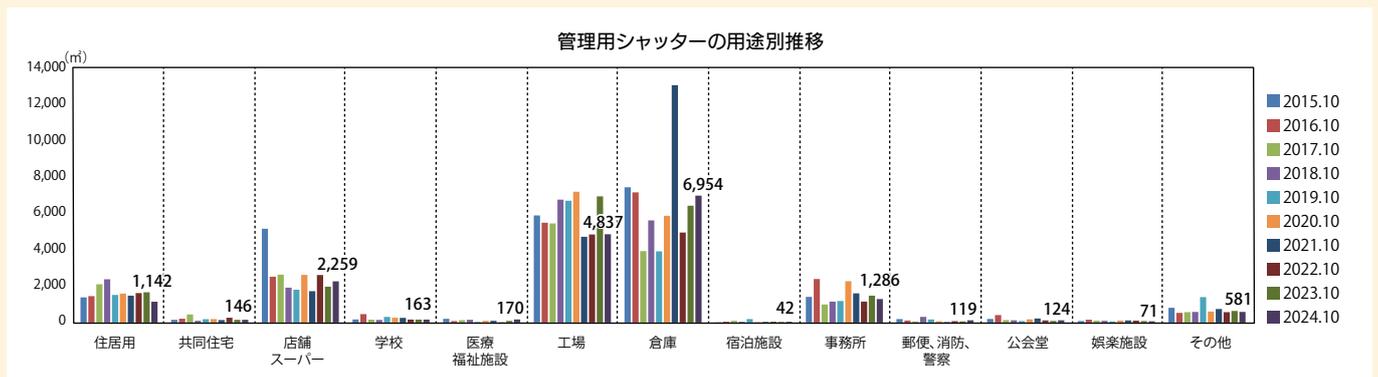
シャッターの使用状況調査 2024

2010年より毎年、業務委員会で調査しているシャッターの使用状況調査について、2024年分の一部を抜粋して紹介します。この調査は、年間を通じて平均的なデータを収集できる毎年10月の1ヶ月の売上物件データをもとに、各種シャッターの建物別用途別の使用状況と年推移等をデータ化しています。なお、調査概要については15ページ下を参照ください。

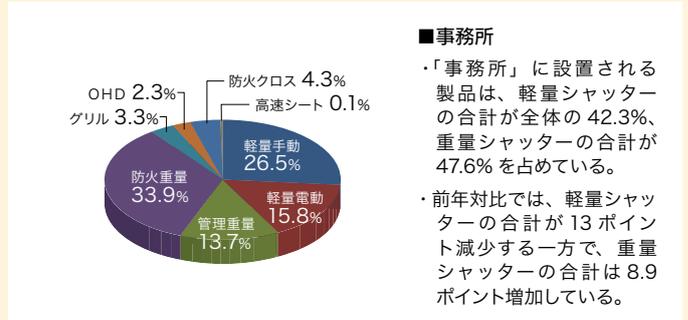
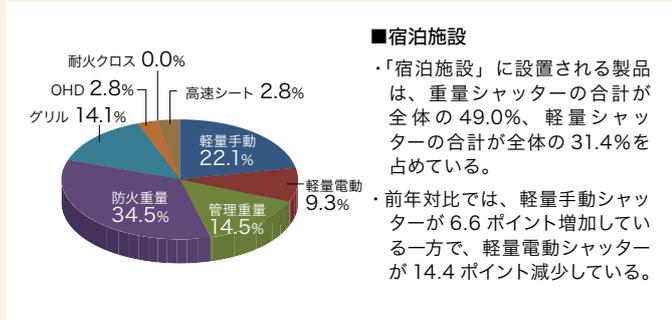
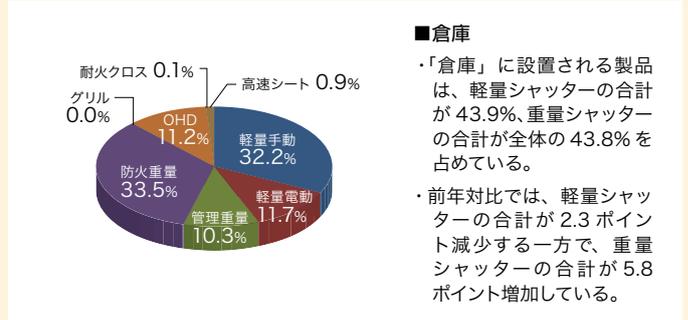
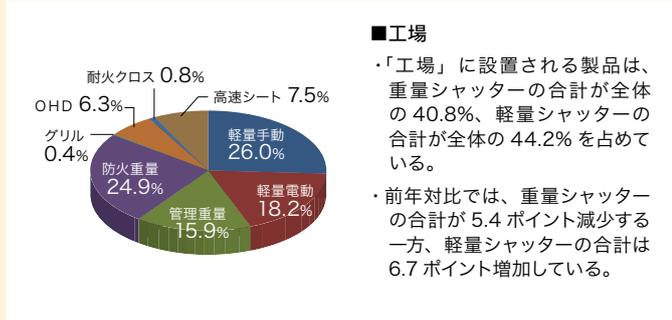
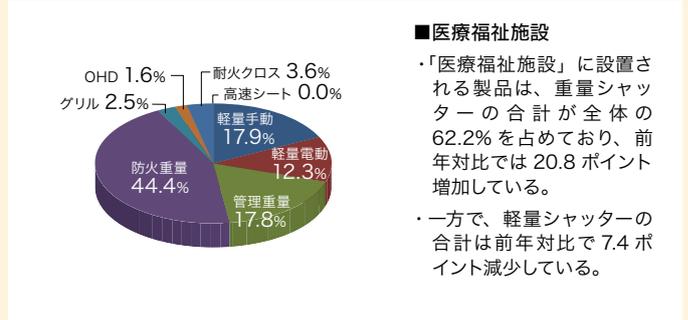
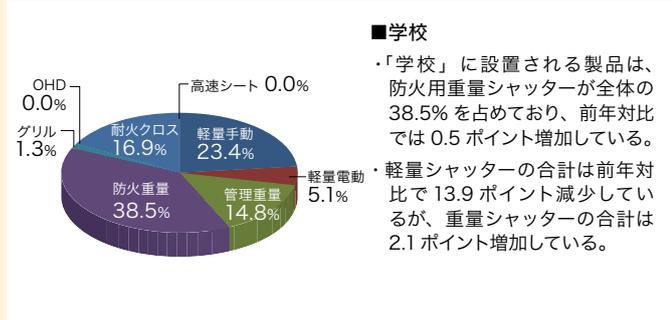
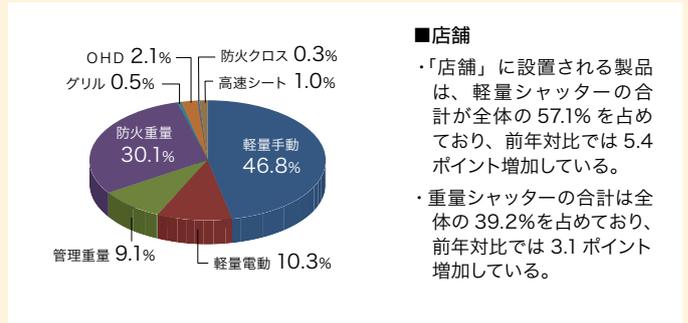
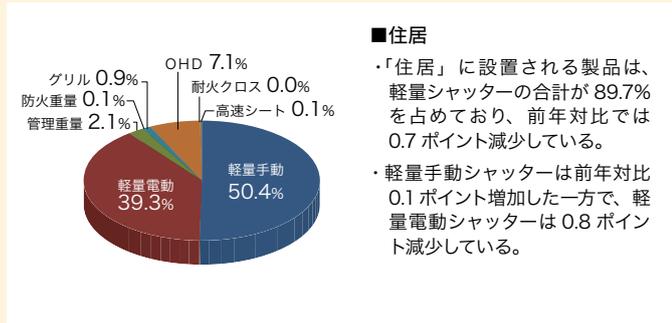
◆製品別用途別使用状況



◆管理用 & 防火用重量シャッターの用途別推移



◆主な用途別仕様製品状況



調査概要

1. シャッターの種類：

軽量シャッター、軽量電動シャッター、管理用重量シャッター、防火用重量シャッター（特定防火設備）、グリルシャッター（軽量、重量とも）、オーバーヘッドドア、耐火クロススクリーン、高速シートシャッター

2. 集計単位：売上数量（㎡）

3. 建物用途区分：

- ①住居用、②共同住宅、③店舗・スーパー・百貨店、④学校、⑤医療・福祉施設、⑥工場、⑦倉庫、⑧宿泊施設（下宿、寄宿舎含む）、⑨事務所、⑩郵便局、消防署、警察署、駅舎、空港、⑪公会堂・集会所・博物館・美術館・研究所・寺院・教会、⑫娯楽施設（体育館、浴場、劇場、球場、映画館含む）、⑬その他

4. 調査地区：47 都道府県

5. 調査期間：2024年10月（1ヶ月間）の売上物件

6. 調査協力企業：当協会会員（12社）

大阪市中央公会堂（大阪府）

大阪市中央公会堂は、大阪市北区中之島に建つネオルネッサンス様式の歴史的建築物です。1913年に大阪市民・岩本栄之助氏の寄附をもとに着工され、1918年に竣工しました。以来、オペラやコンサート、講演会などを開催し、大阪の文化・芸術の発展に貢献してきました。老朽化に伴い、1999年から保存・再生工事が行われ、2002年に完成。創建時の意匠を復元しつつ、耐震補強やバリアフリー化が施されました。その美しい外観と内部意匠が評価され、同年12月に公会堂建築物として西日本で初めて国の重要文化財に指定されました。現在も市民の活動拠点として親しまれています。

(大阪市中央公会堂 HP 参照)



JSDA会報 2025年・初夏号

発行日：2025年7月 通巻第69号

発行者：一般社団法人 日本シャッター・ドア協会

〒102-0074 東京都千代田区九段南 3-7-14 VORT 九段 7F
tel.03-3288-1281 (代) /fax.03-3288-1282
URL:<https://www.jsd-a.or.jp>